

令和2年度 福島県立須賀川支援学校経営・運営ビジョン（最終評価）



今年度の努力目標

児童生徒のよりよい生き方の実現に向けて、児童生徒一人一人の病状や障がいの状態に応じた指導の充実を図るとともに、育成を目指す資質・能力の明確化に努めながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業実践を行う。



子どもの権利を尊重します

子どもの病気を理解します

子どもの学びを保障します

子どもの理解を広げます

<確かな学力の育成>

学力の向上

小学部-A 中学部-A 高等部-A
教務部-A

- ・スタッフ会や打ち合わせ、学部会等を通して、児童生徒の病状や特性、学習状況、指導の方針等について共通理解を図るとともに、支援の方法や指導体制等を工夫しながら指導・支援に当たることができました。
- ・校内グループ研修や初任者研修・経験者研修の授業研究等を通して、児童生徒の実態及び中心的課題の共有・明確化、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの手立てや支援方法の検討等を継続し、日々の授業の改善や実践力の向上につなげることができました。
- ・教科等部会において、各教科等における「見方・考え方」についての確認や、学部間の取組や課題についての共有を行い、指導の一助としました。
- ・これらを通して学習態勢が整い、できることが増え、進んで学習に取り組んだり、自ら考えようとするなどの児童生徒の変容が見られました。
- ・各学部において、必要に応じて外部の関係機関との支援会議や、主治医とのケース会議等を実施し、情報を共有したり助言を受けたりし、指導・支援に生かすことができました。

<豊かな心の育成>

道徳教育や交流及び
共同学習の充実

各学部-A 渉外部-A

- ・感染症予防のため、中止となった活動もありましたが、小塩江中学校との交流、鏡石町立第一小学校、福井県立福井東特別支援学校とのテレビ会議システムを活用した交流、阿武隈小学校との作品、手紙による交流など、内容や方法を工夫しながら、校外の友達とかかわりあう機会をもつことができました。
- ・わかき学級においては、タブレット端末を活用し、わかき集会や教員とやりとりする機会を設定し、人とかかわりをもてるように努めました。
- ・校内や校外周辺の清掃ボランティアや、ボランティアの出前講座などを実施することができました。また、道徳科の授業についてグループ研修等で学び合う機会をもつことができました。
- ・次年度も、感染症の流行状況に応じて、代替案や様々な方法を検討し、計画、実施していきたいと思っています。

<健やかな体の育成>

健康・安全生活の充実
保健部-A 生徒指導部-A
学校保健委員会-A

- ・保健部では、「性に関する指導」についての研修会を行い、各学部の取組について情報交換し、指導に生かすことができました。また、「良い歯の表彰」や「食べ方に関するアンケート」、「食育コンクール」を実施し、歯磨きの大切さや望ましい食習慣について、児童生徒の意識を高めることもできました。
- ・生徒指導部では、学期末の下校指導において安全な下校を支援するとともに、地域の方に生徒の見守りを依頼するなど、地域の方と連携した取組とすることができました。携帯安全教室、交通安全教室等も含め、次年度も内容・方法を工夫・改善して実施していきたいと思っています。
- ・学校保健委員会では、適切な感染症対策について検討し、職員に周知したことで、学校全体で共通理解をもって対応することができました。児童生徒の健康課題に関する取組については、教員間で共有し、今後の指導に生かしていきたいと思っています。

<豊かな生活の実現>

よりよい生き方の実現
(キャリア教育の充実)

小学部-A 中学部-A
高等部-A 進路指導部-A

- ・小学部では、高等部校内実習見学や、中学部体験学習、進路ガイダンスを、進路指導部、中・高等部と連携して実施しました。働くことや小学部卒業後の生活に対する意識を高めることができました。
- ・中学部では、レディネステストにより将来の進路に対する意識化を図り、職場体験を通して、働くことへの意欲を高めることができました。高等部、進路指導部と連携し、主体的な進路選択ができるような指導を継続していきたいと思っています。
- ・高等部では、「職業と生活」をキャリア教育の要とし、他の教科の内容を相互に関連付けながら授業を行い、校内実習や産業現場等における実習によって生徒自身の課題対応能力の育成を図ることができました。
- ・進路指導部では、進路希望調査や進路相談をもとに生徒の希望を把握し、将来の進路に結び付く実習・見学先の選定を行うことができました。各学部の段階に応じた進路指導の工夫や、実習先の評価を教員にフィードバックすることで、よりよい進路指導につなげていきたいと思っています。

<教師の専門性の向上>

病弱教育の専門性の向上

研修部-A 情報教育部-A

- ・校内研修では、毎月2回のグループ研修を継続し、それぞれテーマに基づく研究を行い、育てたい資質・能力を共有しながら「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善を図ることができました。また、実践報告会を実施し、各グループの成果や取組を共有することもできました。次年度も、学校や児童生徒の課題を踏まえた研究テーマを掲げ、よりよい授業づくりに努めていきます。
- ・テレビ会議システムを活用した研修会を実施し、児童生徒の実態把握の仕方や、ICTを活用した授業づくりなどについて学ぶことができました。
- ・情報教育部では、スィッチ教材や、タブレット端末用の教材づくりを支援しました。情報教育の基本的な考え方を啓蒙しながら、児童生徒の実態に応じたICTの活用や教材づくりを推進していきます。

<センター的機能の充実>

地域のニーズに
応じた指導の充実
地域支援センター-A

- ・小学校4校での相談支援においては、ICF関連図を用いて児童の実態等や課題を整理し、支援にあたりました。ケース会議では、相談支援シートを活用して進めることで、話し合いの焦点化、支援の経過などの情報の整理がなされ、より効果的な支援につなげることができました。
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため延期となった特別支援教育研修会を、11月に実施しました。地域の幼稚園、小・中・高等学校より43名の先生方が参加し、心の病気のある子どもへの教育的支援について学びました。次年度も、感染症対策を講じながら、より地域のニーズに応じた研修会を実施したいと思います。